５月の校長室より
ー風，香り立つ 夏を味わうー

かぜとなりたや
はつなつのかぜとなりたや
かのひとのまへにはだかり
かのひとのうしろよりふく
はつなつの　はつなつの
かぜとなりたや
川上澄生「初夏の風」より

立夏(今年は5月5日)をすぎた「風薫る」5月。このころ，野山には白い「卯の花」が咲き，森では「時鳥」が鳴きます。この開け放たれた初夏の天地を「薫風」が吹き抜けていきます。

【風薫る】
初夏5月の柔らかな風の印象が強い薫風は，南から吹く風のことをいいます。この風は木々を揺らし，若葉をそよがせて夏の色に染めていきます。昔の人は夏の到来を知らせるこの風にかぐわしい香りを感じとっていました。

【卯の花】
空木の花のことを卯の花と呼びます。新緑の野山に咲く白い卯の花は，見るからにすがすがしく感じます。卯の花の由来については，卯月(旧暦４月)に咲く花とも，房状の花が白い兎(卯)のようだからともいわれています。

【時鳥】
卯の花が夏を告げる花なら，時鳥は夏を告げる鳥といわれます。5月頃に南から日本に渡ってきて8･9月頃に南に帰っていきます。「キョッキョッキョキョキョキョ」と鳴きますが「テッペンカケタカ」「特許許可局」とも聞こえます。

風薫るすがすがしい5月の風をうけて，6年生の児童は19日に行われる市内ブロック陸上大会に向けてがんばっています。コロナ禍での行事となりますが，市小学校体育連盟が中心となり「陸上大会がどうやったらできるか」について知恵を出し合って事に当たっています。6年生にとって素晴らしい思い出になる大会になることを願っています。